



ももせ



2025年 チャレンジの年に

2025年、干支では「乙巳」(きのとみ)の年です。「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。これまでの努力や準備が実を結び物事を安定させていく時期となる年だそうです。今まで胸に秘めてきた夢、着々と準備してきたことに、思い切ってチャレンジできる変化の年でもあります。自分を変化させること、「できない」と決めつけてやらないのではなく、どうしたらできるかを考えてチャレンジできる年になれば…と思います。

7日の始業式では、パリ五輪で金メダルを獲得した北口選手(やり投げ)のこを取り上げながら、自分自身も変化したいことを述べました。がんばりたいことを表明して自分を追い詰めたいたい思いもあります。(追い詰められないとやらない自分を克服するのは難しそうですが…)

さて、パリ五輪といえば、昨年末にテレビで2024年のスポーツを振り返りランキングにする番組を見ました。体操の男子団体で窮地に立たされながら、逆転の可能性が見え始め、最後の演技者である橋本選手が鉄棒に臨む場面、番組のコメンテーターで体操競技のメダリストである内村さんは、なんと「代わりたい!」と語ったのです。自分の演技に団体戦の大逆転がかかっている、絶対にミスは許されない、当事者であっても逃げ出したくなるような場面で、その役回りを代わりたいと思えるメンタルに驚きました。しかも、一般の人ではなく、その役割を存分に経験してきた選手だった彼から出た言葉だけに驚かされたのです。一流選手が引退後しばらくして復帰するのはこういうことなのかと考えさせられました。

どんな年になるかではなくて、どんな年にするか、自分次第なんだと肝に銘じながらも今月が終わろうとしています。インフルエンザの全国的な流行が報道されています。何をしても健康がその土にあります。みなさまどうかお気を付けください。

自分で考え 判断し 行動する ~避難訓練より~

1月17日、授業時間外に火災発生の想定で避難訓練を行いました。子どもたちには近いうちに訓練があることだけを伝えておきました。いろんな場所で放送を聞き避難する姿を見たかったのですが、雨で運動場にいる子はなく、混乱なく体育館への避難となりました。火元に近づかない安全な経路を考えて行動することも身につけたい力です。ご協力いただいた消防署員さんは、東日本大震災の『釜石のキセキ』を語られました。「決してキセキではなく、子どもたちが学んできたことをもとに大人を動かして被害を最小限におさえた。やるべきことをやった結果だ」と。もう一人の署員さんは、「放送で高学年の子に低学年の子をサポートしようという指示に感心され、帰り際には、2学期に起震車体験をした時も南小では下の子の面倒をみようとする高学年児童の姿が心に残っていることを言葉にされました。異学年間様々なかかわりが子どもたちを育てているのを感じます。

折しも災害時の「共助」の起点となった阪神淡路大震災の発生から30年となったこの日、30年前の恐ろしい揺れが記憶からなくなることはないものの、防災について備えているかと問われれば胸を張って「はい」と言えない自分を恥じながら、その後の数日間はテレビから流れる当時の映像や被害にあった当事者や家族の30年間の思いを知る時間を過ごしました。



← 渡り廊下を
体育館へ避難

異学年がふれあう
たてわり遊び
(風船バレー) →



3日 (月)	クラブ活動(3年生見学)
7日 (金)	読み聞かせ(1年.6年) たてわり遊び
11日 (火)	建国記念の日
12日 (水)	入学説明会・体験入学
14日 (金)	読み聞かせ(3年.4年)
17日 (月)	クラブ活動

17日 (月)	ジャンプアップ週間(~23日)
18日 (火)	なわとび大会
19日 (水)	図書館訪問貸し出し
21日 (金)	読み聞かせ(2年.5年) 学校運営協議会
24日 (月)	振替休日(23日天皇誕生日)
25日 (火)	3~6年ブックトーク
28日 (金)	読み聞かせ(3年.4年)

2月 学校行事予定

自分らしく生きる...『夢のきっかけ講座』（12月）

2学期末のことになりますが、12月12日・17日の2日間に分けて『夢のきっかけ講座』を開催しました。これは、3～6年生の*キャリア教育の一環として、職業の異なる5人の方を学校に招いて、その仕事を選んだきっかけ、やりがい、苦勞、そして子どもの頃の自分を振り返って、今の小学生に伝えたいこと、などをお話ししていただきました。それぞれに異なる人生を歩まれている方々のお話に身を乗り出しながら聴き入る子どもたちの姿が印象的で、質問コーナーには多数の希望者が列をなし、時間切れとなる場面もありました。

宮前 憲生 さん（住職）

高校生の頃、急病によりそれまでの記憶を失うという困難を乗り越え、新しい自分に出会うために「できることは何でもやってみよう」と外国での生活にチャレンジしたり、仏門での厳しい修行のなかで自分を見つめ、自分を磨いてこられたりした経験を語っていただきました。



左 寄 謙 祐 さん（料理人 鮎ずし製造）

自分が大好きな学問の道を目指しながらも、家業に触れた時に、「若き日の父はどう考えたのだろう」と生き方について深く考えることを通して代々継承されてきた店を受け継ぐ決心をしたことや、住み込みで厳しい修行の経験が今の自分を作った様子を語っていただきました。

河部 光男 さん（元 新聞記者）

読書家であった少年時代を振り返りながら、国語教師が新聞社かの選択を迫られ、言葉で伝えるやりがいのある仕事について、新聞社の仕事を紹介され、私的なSNSの発信とは異なって、メディアとしての責任ある発信をするために裏付けとなる取材を心がけたことなどを語っていただきました。



近 松 和 香 さん（フィットネスインストラクター）

体を動かすことが好きで、自分だけでなくより多くの人に健康になってほしいという願いをこめて活動をしながら、郷土の自慢である琵琶湖を味方につけ、大自然のなかで体を動かすことで心も健康にしようという取り組み様子を語っていただきました。実際にミニレッスンも体験しました。

古 本 祐 也 さん（漫画家）

小学1年生の頃に制作した「えにっき」を子どもたちに見せながら、初めて出会ったコミック本に魅了され、さらに自分を高めたいと考えて進路選択をしたこと、何より「好きなことを仕事にしている自分はなんて幸せなんだ」と思いながら日々画面に向かっていくことを語っていただきました。



どの職業でもそうなのだと思いますが、5名の方々が様々な苦勞を経験して今があるということが伝わってきました。ただ、子どもたちに「苦勞はすべきだ」というような思いはまったく感じられず、その経験に誇りを持って生きておられることがひしひしと伝わってきました。テレビで転職や仕事探しのCMに出合わない日はありません。そんな時代であっても、いやそんな時代だからこそ、年齢を重ねた今でも資格を取得して仕事の幅を広げようとしたことには感心させられ、仕事をしていていちばん嬉しいのは、「反応があること」とおっしゃったのも印象的でした。

私ごとで恐縮ですが、約20年前に教員が民間企業で勤務するという経験をさせていただきました。3か月間スーパーマーケットで勤務した時の研修で、*メラビアン¹の法則を教わり、お客様の顔を見て笑顔を添えた「いらっしゃいませ」を何百回と繰り返す日々でした。でもほとんどの人は素通りです。たまに「こんにちは」と返してくださる人の存在に喜ぶ毎日でした。ある日、高校生の集団が来店した時も、いつもと同じように「いらっしゃいませ」と声をかけると、そのうちの一人の女の子が「いらっしゃいました！」と大きな声で返してくれました。キャツキャツと言いながら去っていく生徒たちの背中を見ながら、反応してくれたことが嬉しくて、客の立場にしかならない今でも「こんにちは」と返すか少なくとも会釈くらいはするようにしています。声をかけたその存在をわかってほしいという思いにこたえられていたら幸いです。また、家族が何かを話している時に「なあ、聞いてるん？」と叱られることもあります。話しかけている側からすれば親身になって聞いているのかどうか表情から感じ取ってしまうのです。お子さんの話も心を込めて聴くことが大事ですね。「聞いてるん？」って言ってくればいいのですが、何も言わずに「話す価値なし」とされてしまっはたいへんです。『夢のきっかけ講座』は、様々な学びのある取組となりました。

*キャリア教育…一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な力や態度を育て、人が生涯の中で様々な役割を果たし、自らの役割の価値や自分との関係を見出ししていくための基盤となる学習をキャリア教育と名づけ、学校教育に取り入れています。

*メラビアン¹の法則…人と人がコミュニケーションを図る際、言語情報が7%、聴覚情報が38%、視覚情報が55%の割合で、相手に影響を与えるという心理学の法則で、コミュニケーションの質向上を目的に活用されています。